

**「彼女は一人で歩くのか？—Does She Walk Alone?」 森博嗣 著**  
**講談社 2015年10月発行**

これはもはやサイエンスフィクションではなく、既に世界のどこかで始まっていることかもしれません。

医療、そして科学の発展により、人間が「死ななくなった」時代、次に社会が直面した問題は、人間が「産まれない」ことでした。

研究者であるハギリ博士は、人工細胞で作られた生命体であるウォーカロンに纏わる研究を行う中で、奇怪な事件に遭遇したり、なんだか死にかけたり、え、海外ドラマですか？（あ、いや、個人の意見です。）的なアクションと、そんな博士の最強ボディガード、ウグイとの掛け合いが絶妙な、そんなミステリィ、と言わせてください。

ハギリ博士が研究や事件を通して出会う様々な人間、ウォーカロン、そして人工知能やトランスファ、誰が「生きていて」、誰が「生きていない」のか？人間とプログラムの違いは何なのか？世界で、社会で、人間に何が起きているのか？真相に迫っていくドキドキは、読めば読むほど、今後社会がどうなっていくのかじとっと考えさせられるシリーズです。

本書の中で引用されているのは、「アンドロイドは電気羊の夢を見るか？（フィリップ・K・ディック 著）」ですが、こちらを読んだことがある方は、きっと本書もぐさっと胸に刺さる（かもしれない）ことでしょう。

作者、森博嗣先生は、「すべてがFになる」シリーズの小説をはじめ、他にも多くの小説やエッセイなども著されています。国立大学工学部の元教官らしい独特の切り口と癖のある言い回し、工学系あるある、やみつきになりますので、興味があればぜひお手に取って読んでみていただければ嬉しく思います。